

2018.08 - 2021.12

ANMITSUYOMOGITEI PRESENTS


R-18  
FOR ADULTS

# ANMITSU TOUHO HISTORY

Vol.

# 4





2018/08/10 C94  
お百度上手の早苗さん



—最近

うちの神社によく参拝に来る男の子がいます

110  
シヤ

えと……  
今日で  
20日目  
でしたっけ……

せ、精が  
出ますね……

はい……っ  
一日も  
休めません  
から……っ

わっ……



真面目で  
信心深くて……

純粹でいい子……



どうしても叶えない  
お願い事がある  
みたいだったので

いっせ  
参拝します

真中は  
通らな  
いよ、

百日間  
毎日参拝する  
〔お百度参り〕を  
教えてあげたら

欠かさず毎日  
参拝に来られる  
ようになりました

んん

早苗さんと…  
両想いに  
なれますように…っ

ただ…  
そのお願い事が—



まさかそんな  
お願いとは思わず…  
「信仰をすれば  
きっと願い事は  
叶います」  
神は  
あなたを想っ  
て聞いちゃっ  
た  
…っ  
なんて  
つい言ってしまった  
ばっかりに…っ



その上—  
なんと  
お願いを  
したんですか…?



そんな…

そんなの  
言え…  
ません…っ



本人はお願いが  
声に出ちゃってる事に  
気づいてないみたい…



それを  
指摘する  
訳にもいかず  
無垢な好意を  
無碍にできる  
訳もなく

連日のように  
告白を聞き続けて  
いると…

そっか…



どうにかなって  
しまいそうで…

さ、早苗さん

もっと  
お願いを成就  
しやすくするには  
どうしたら…?!

ど、どうしても  
叶えたいんです  
…っ  
何かあったら  
教えてください…!

相手がまだ  
子供とはいえ…



守矢神社の  
参拝は効きますね  
…なんて  
はい…  
おまけ



意識しないようにと  
思えば思うほど...

この子の  
濡れた髪や：  
潤いのある唇や...

張り付いた服が  
煽情的に見えて...

——つて  
子供相手に  
何考えて——ッ!?  
意識しすぎて  
動悸が収まらない  
いい——ッ!!



落ち着け  
落ち着け  
相手は子供：  
それも純粹な子  
なんだから...

平常心で...  
平常心で  
接すれば—  
ん?



なんかすごく  
コッチ見て...





あ  
...

ポ  
ッ

ポ  
ッ



す、すいません  
僕……ッ！

待っ……ッ  
ダメ……！  
そっちは  
滑るから……ッ！

危ないッ！！



え……あ……  
ちょ……！

す、透けっ!!

ポ  
ッ





無垢なままなのに  
本能で硬く  
しちやってる

小さいのに  
私を押し上げて  
くる——ッ

硬いの当たって  
気持ちいい——

ぐりぐり擦れて  
気持ちいい——

私の事が  
好きって気持ち……ッ  
私のために  
おつきくさせた  
ちんちん……ッ

もっと……  
感じたい……ッ

もっと……  
いっぱい——

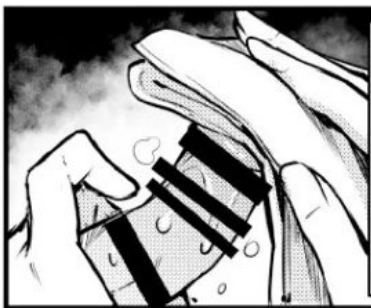
感じ……た——ッ





この時の早苗さんは  
いつもと違って  
少し変だった様に  
思います

だけど僕は  
初めての感覚がして  
頭が回らなくて  
何が起ったのか  
よく分からな  
かったです



最初は  
驚いたけど  
これも誤なんだと  
分かって  
安心しました

早苗さん曰く  
この白いののは  
「穢れ」という  
悪いモノで

その後  
落ちてから  
早苗さんが教えて  
くれました

これを出すのは  
沐浴と同様  
心身を清らかにする  
意味があるらしいです



—その後は  
いつも通り  
お参りをして  
帰りました



—それから  
お参りする前は

毎回  
【機械】を出して  
清めてもらっています



待...  
あ...

あ...  
ま...

あ...  
ま...

ふい



何回も  
していいうちに

なんだかそれが  
気持ちいい  
感じがして...



出ほうに  
なっはら...

いつでも  
出ひて  
いいからね...

心身を清めるため  
早苗さんは  
積極的に裸を  
してくれます

最初はゾクゾクと  
変な感じがして  
苦手だったけど



早苗さんは穢れを出すためにいろんな工夫をして... 特に身体を押し付けられたり...

だんだん穢れが上がってきましたよ...♡

力を抜いて...身をゆだねて一気に出しましようね...

耳を舐められたりすると凄くゾクゾクして...

腰が抜けるように穢れが溢れてきます

たくさんの穢れが出ると早苗さんは凄く満足そうにしています





お願い事を  
叶えるために毎日  
お参りに行って：



その度  
早苗さんは優しく  
丹念に禊をしてくれて

僕は今まで以上に  
お百度に熱心にな  
っていった：



だんだん——  
日を重ねるごとに  
禊をする回数  
を増やしていった：



え...  
どうしたの...?



お百度を  
諦めたい...  
なんて——っ

え...  
だって...







入ーッ

ちゅっっっっ

えー?

早苗さんの中に僕のが



一度一度  
心願成就の  
願いを込めて  
境内を往復して  
お参りすると...

雑念が払われ  
信仰を強くし  
穢れが浄化する  
そうですよ...



お百度参りには  
ですね...

入口から拝殿まで  
一日で百回  
往復するとういうのも  
あるんですよ...



知って  
ますか...?



今は  
まだ一度目……

だから……  
してみませんか……？

私の膣内を  
百回往復する  
お百度参り——♡



ハ……

ハ……

ハ……



ハ……

ハ……



さんじゅう…  
きゅん…♡

きゅん

きゅん

どろろ



穢れは  
膣内に好きに出して  
いいですからね♡

そのまま…  
もっと…♡

心願が  
妻く伝わって  
きますよ…♡

はう…♡  
そう…♡  
上手な  
参拝です♡

私の膣内は  
とても神聖なので  
全部清めて  
あげられ  
ますから♡

は、はい…

きゅん

ピキッ

カキッ



ああ♡凄いい♡  
高まっていますよ  
信仰がっ♡

これからは  
この参拝の仕方が  
良いですねっ♡

手も  
——ごう♡  
おっばいで  
合わせた方が  
信仰が  
高まりますっ♡

ああ  
上手っ♡  
心願  
きちやうっ♡

お願い  
届いちゃう♡  
成就するっ♡  
しちやうっ♡



大丈夫

神様は  
あなたの声を  
聴いています



信仰すれば  
きつとお願いは  
叶うから

ハッパン♡

ハッパン♡

ハッパン♡

ジュジュ



これからも  
毎日お百度…  
頑張ろうね

ひゃあ…  
く…うっ…  
♡♡

アッ…









知識と日陰の少女  
パチュリー・ノーレッジ

本の傍に在る者こそ  
自分とする  
引きこもりの魔法使い

淑やかで美しい  
その佇まいは  
まさに知識人の  
体現と言えるでしょう

僕はその  
パチュリー様の  
従者の小悪魔

この大図書館の  
司書を勤めるうちの  
一人です

パチュリー様は  
本を読む時間を  
至上の喜びとし  
何よりも尊びます

僕たちは  
その時間を穏やかに  
過ごせるよう  
日々助力をしています

僕としても  
敬愛する主人に  
お仕えしている  
この時間は  
何よりも  
代えがたく  
尊いものです

けれど  
最近――

あ……っ

ス……

ス

こうして  
本を読みながら  
眠ってしまうことが  
よくあります

パチュリー様は  
一度寝落ちしてしまうと  
数時間は目覚めません

呼び掛けにも  
反応せず僕は  
困り果ててしまいます



パチュリー様...っ  
ここで寝られては  
お風邪を...っ

しかし  
それ以上に  
困ったことは

パチュリー様...





あまのり  
僕は……

バチユリー  
様……っ

ごめん……

なさい……っ



不敬にも  
従者としての  
敬愛を超え  
主人に対し  
恋情を憶えて  
しまい……

バチユリー様……

あまつさえ  
無防備な  
主人を相手に  
劣情にかられて  
しまつて  
いるのです……

バチユリー様  
好き……っ  
バチユリー  
様あ……っ



外出しない  
パチユリー様の肌は  
白く透き通るようで

ほんのりと感じる  
汗の匂いは官能的で  
さえあります

パチユリー様の  
乳房は  
とても大きく  
押し付ける  
指も顔を埋もれて  
しまう程です



そして  
その香りに  
突き動かされて  
僕は我を忘れ  
股間を  
擦りつけ…

そのまま  
胸の中で  
果ててしまいます

はっわっわっ…



また...  
また...  
やっちゃった  
.....

また...

たぶ...

あ...あ...

は...う



う...う...

こうして  
日々パチュリー様が  
うたた寝をする度に  
いけない事だと  
分かっているのに  
同じことを  
繰り返してしまいます



自分の恋情も  
告白できない  
不甲斐なさと  
あまりに不遜で  
愚かな行為に  
自己嫌悪を募らせ

ごめん  
ごめん...っ!  
なさい...っ!  
ごめんなさい  
パチュリー様...っ!

今日も  
ただただ僕は  
自分を恥じるばかり...

そして  
もう二度と  
このような  
行いはしないと  
硬く誓います

かあ...



だけど  
それからも——





パチユリー…  
さま…っ

そして  
いつもと違う  
緩んだ寝顔を  
見ってしまうと…



パチユリー様は  
寝台に本を持ち込んで  
読むことも  
珍しくありません

落ち着くのか  
そのまま寝落ちする事も  
多々ありました

もぞもぞ



結局  
僕は抗うことが  
出来ず…  
また同じ事を  
繰り返して  
しまいます

自分の意志の弱さを  
ただ嘆くほか  
ありません





パチユリー様の  
居眠りは  
日に二度三度とあり  
その度に僕は  
連日同じことを  
繰り返してしまっ

とどうとう  
替えの下着も  
間に合わなくなる  
なんて……  
うう……  
僕はまた  
こんな事……っ

い……今だけは……  
絶対に射精は  
出来ない……っ



ん……っ

我慢  
しないと……っ!



だ……ダメだ  
これ以上は  
射精ちゃう……っ  
今日はまだ  
我慢……っ

ん……っ

ん……っ

ん……っ

ん……っ

ん……っ

ん……っ

ん……っ

ん……っ

ん……っ

ん……っ

ん……っ

ん……っ





んんん...

んんん...

はあ...

ちよ...っ  
パチュリー様...っ!?

待...ッ

寝ぼけ...!?



あ...

い...

あ...

あ...

あ...

はの

ああ...っ

クズ......

あああああ  
なんて...を...の

と...かく  
...

はあ...

はあ...



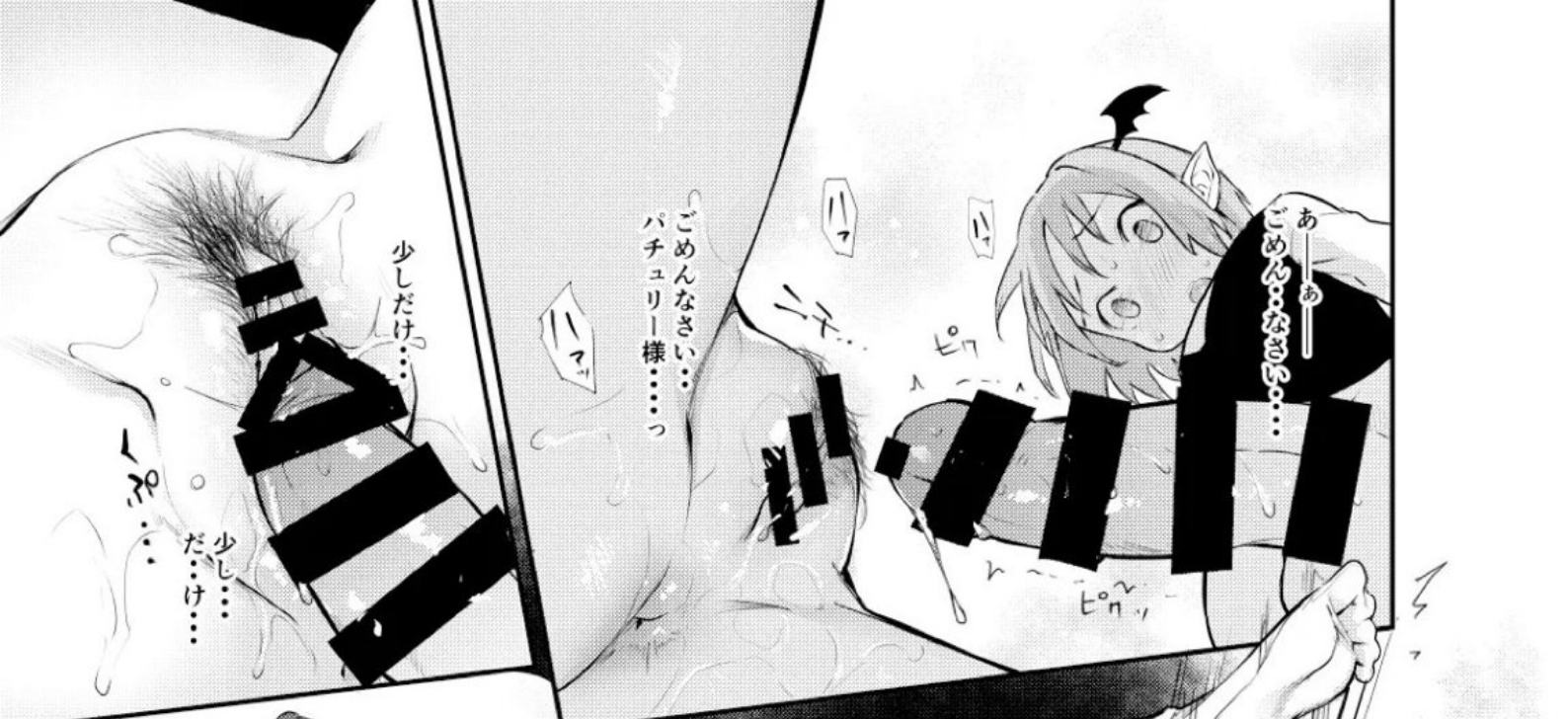
それから—っ

急いで  
お召し物を  
変えて……っ  
拭って……  
着替えさせて……  
それから……



何故今日は……  
下着も……着けず……

あーあ  
なんーで……



少しだけ...  
少し...  
だ...け...

ごめんなさい...  
パチユリー様...っ

あーあーごめんなさい...



うあーあ...っ  
ぬるぬるで...一気に...っ!

でも...  
膣内がうねって...  
纏わりついて...  
すごい...  
凄い...気持ち...  
...い...

きゅん

あ

きゅん

きゅん

きゅん



は...

きゅん

あ





寝たふり…!?  
寝たふり  
だったんですか!?

まさか  
ずっと…っ!?

だって…っ

だって…っ!

ふっ

わっ

最初は  
戸感った  
けど…

貴方に  
甘えられるの  
気持ちよくて…  
懸命な貴方の顔  
見れるのが  
嬉しくて…

その後  
いつもオナニー  
してたの…っ

それが  
止められ  
なくて…っ  
もっと触って…  
甘えてほしくて…  
っ…っ…っ

そ…そんな  
パチュリー様が…!?

そんな事を…  
隠れて…!?

だって…っ



だって……

貴方の前だけは……  
淑やかな主人で  
いたかったの……

ホントは  
いやらしいなんて  
……

知られたく  
なかったから……

そ……そんな……

そんなの……

ズルいですっ！







パチユリー様  
好きーッ

好きですッ  
大好きですっっ!

オオオオ

オオオオ

オオオ

オオオ  
オオオ  
オオオ





その時は——

居眠り  
しないように  
僕が起こさないと  
いけないみたいです——









出来るよ…  
もう僕が  
おしめの交換も  
やってるし…っ

二か月  
だっけ？  
ちゃんとお世話  
出来る？

色白で  
ぶにぶにで  
まだ小さい♡  
大人しくできて  
偉いね♡

おー  
凄いつ  
いっちょ前に  
お兄ちゃん  
やってるねえ

あ  
そっか



なに  
言ってるの…っ  
僕は  
別にそんな…

えー？  
だつて…



キミの妹なら  
おっぱいも  
好きかな？  
ちよつと  
あげて  
みよつか？

な…っ！？











おまじ

おまじ

今度  
どうにかして  
謝らなきゃ...

ただいま...

ガラッ

!?



ちゃぽ

わちきは  
赤ちゃんに  
なり申した!!

そんなこと  
ある?





わーん

しょ...  
しょうがない...

しょーがないでしょ  
赤ちゃん  
なんだからっ！  
いつも  
私がおっぱい  
あけてたんだから  
いーでしょっ！

なに  
無茶苦茶  
言ってるの...!?  
そんなの僕  
無いし...っ！



ーん

だ、だめだ...  
完全に  
駄々っ子の  
赤ん坊になってる...



じゃあ  
いただき  
ます♡

ん...っ！



恥ずかしい  
けど...  
元はといえば  
僕が悪いし...

♡♡♡  
♡♡♡  
♡♡♡  
♡♡♡  
♡♡♡

うん...  
好きだけ  
甘えていいの？

ううん...



んっ...  
おっぱい...  
出ないねえ...

だから  
出ないから...っ!



じゃあ  
代わりに  
こっち吸う... ♡

そろそろ  
止め...っ

えん?!

ちゅっ



ちやんと赤ちゃん  
あやしてるみたい  
頭撫でながら  
褒めて…っ

授乳中の  
赤ちゃんには  
優しく…  
偉い偉いって  
褒めてあげるの…っ!

う…  
ううう…っ



ちゅー…  
そこ全然おっぱい  
じゃない…っ!

ちゅー…



いっ…  
いっばい  
舐められて…  
え…あつ

ちゅーちゅー…  
出来て…偉い…



な…  
舐められて  
偉い…

上手に吸えて  
偉い…

え…偉い…



あ…待っ…

ちゅー…  
そんなに  
吸っちゃ…っ



あ……っ♡

すっごい  
ミルクいっぱい  
溢れちゃった……♡

もったい  
ない……♡



うう……

まだ愛情が  
足りないのっ 役目  
でしょっ



零して  
濡れちゃったから  
脱ぎ脱ぎさせてっ

早く早くっ♡

ま、まだ  
するの……?

キリッ



じつても…?

当然  
でしょっ

う…わ…  
お姉ちゃんの裸  
はじめて見た…

そっちも  
濡れてるの…っ  
おしめ交換は  
得意でしょっ



ぬ…脱げた?  
これ  
いい…?

ピンクで  
めるめる…  
ドキドキして  
直視できない…



こい

わっ!?









待つ...  
止まっ...!

...これっ  
気持ち  
よすぎて...っ

溶けちゃ...

ちんちん  
溶けちゃう  
から...っ!



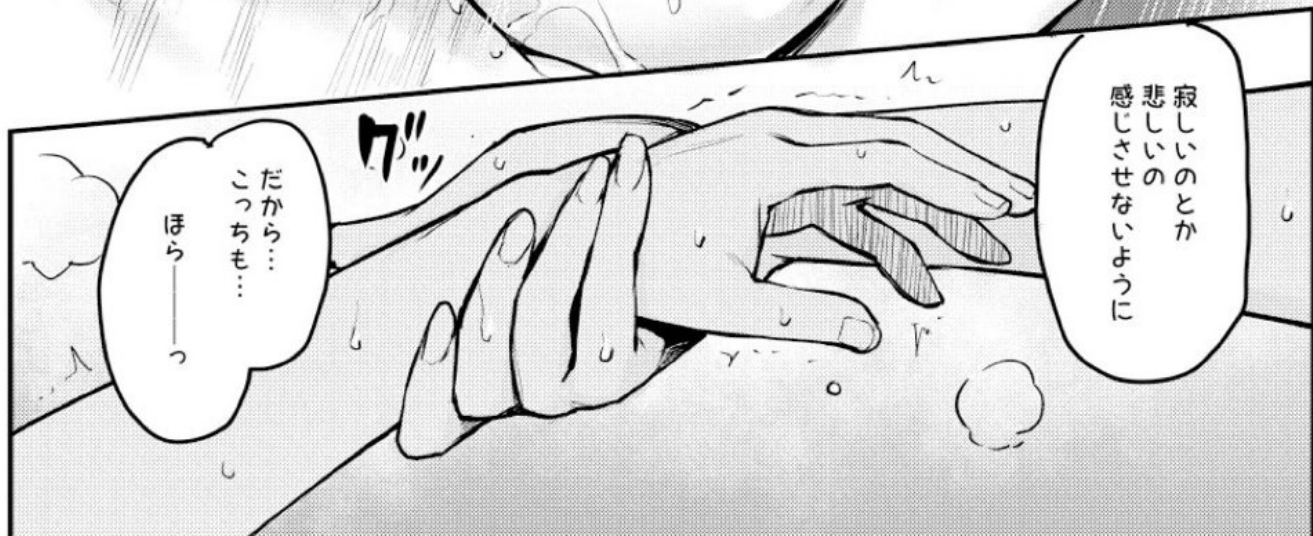
ダメ...っ  
もっと...っ

もっと  
するの...っ

好きだけ...  
甘えさせてくれる  
って言ったから...っ

もっと  
あやして...っ

甘や  
かして...っ



寂しいのとか  
悲しいの  
感じさせないから

だから...  
こっちも...

ほら...  
っ



もっと  
撫でて触って  
愛情を注いで……♡

特におっぱいは  
興味ないって言われて  
傷ついているんだから  
……っ!

偉い偉いって  
褒めたげて♡  
いっほい  
褒めて慰めて……♡

う……  
う……

お姉ちゃん……  
の……

お姉ちゃんのおっぱい偉い……

え……偉い……

いっほい

あ

あ……

す

いっほい

いっほい  
♡

いっほい

いっほい

いっほい

いっほい





我慢して...っ

ずっとなぞ  
触りたくて...

好き...っ

僕...っ

僕...

は...



あああ

あああ

あああ

あああ

あああ



お姉ちゃん  
好き...

好き...

うん...

うん...

ありがとう...♥



だって...  
いつまでも  
甘えん坊の子も扱い  
じゃなくて  
早く大人になって  
お姉ちゃんおねえちゃんと  
対等たいとうになりたくて...

お兄ちゃんになって  
頑張ったりしてて

つい...  
あんな事...



あの...  
お昼はひどい事  
言っちゃって...

ごめん...  
...なさい...

そんなの  
もう気にしなくて  
いいのに♥

もう  
わちきは  
元氣復活ってねっ!



だから...  
甘えないように  
してたのに...

結局...また...  
恥ずかしい...

そっか...



でも大丈夫…

私も赤ちゃん  
だったから

対等  
おんなじ  
でしょ？



誰だって  
甘えなくなる時は  
あるんだから…

甘えるのは  
恥ずかしく  
ないよ

頑張ったら  
頑張った分だけ  
甘えていいんだよ

ん…



じゃあ  
次は…



ん…

きゃー

わっ  
甘えん坊さん  
復活かな？

へへへ…  
いいこ  
いいこ…



わちきの  
赤ちゃんに…  
なり申すか？  
♥











美宵さんはその際に  
いつも僕の面倒を  
見てくれながら

一緒に  
お昼を取ったり  
していた

落とさない  
ようにねー

んっ

ワキヤ

なんだか  
親しい姉が  
出来たように  
感じていた

僕は爺っちゃんのお店で  
こうして昼ご飯を  
食べるのが日課に  
なっている

おいしい  
食ったなら  
自分で片付け  
すんだぞ



はい

最初は一々  
お節介な人で  
煩わしく感じても  
いたけど  
毎日毎日  
甲斐甲斐しく  
接されてる内に



そこ  
まだ汚れて  
るよっ



ただ

あ



なんだあ  
アイツ?  
慌たらしいな…

便所くらい  
もちっと  
落ち着いて  
行けないのかね…



ハイツ  
終わった!!

お便所  
行ってくる!!



ただ  
不満があると  
すれば

美宵さんは  
良い人  
それはきつと  
間違いないと思う



もう…  
なんなんだよ  
コレえ…

美宵さんに  
近づかれると  
こうなってしまう事だ



なんか  
目立って  
恥ずかしいし  
なかなか  
収まらないし…



最近  
は美宵  
さん  
に近  
づか  
れる  
だけ  
で

チン  
チン  
が勝  
手に  
硬く  
なっ  
てい  
つち  
やう



こう  
して  
いる  
今も  
美宵  
さん  
の事  
が頭  
から  
離れ  
なく  
て

僕は…  
僕の  
身体  
一体  
どう  
なっ  
て…



あ  
起き  
まし  
た？







もう夕方  
ですよ

御寝坊  
さん♥



え…？

トイレ傍で貴方が  
眠りこけてたから  
ここに連れてきて  
寝かせて

覚えてない？

なんで  
つて



そんなに  
驚かなくても  
良くない？

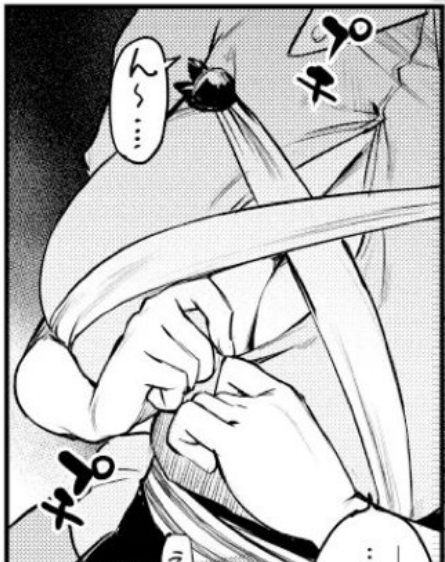
失礼しちゃうっ

え  
美宵さん…！  
なんで…！？

そう…  
だっけ…

じゃあ  
今は…？  
………？

あれ……





思い出し  
ちやった……?♡

お酒って  
慣れるから  
もつと上手に調整  
しなきゃねえ  
うっかり  
しちゃった♡

でも  
何されてたのか  
まだ分かってない  
みたいだからいつか♡

あゝあ  
またこんなに  
勃たせて……♡

み  
美宵さんっ  
何して……!?

魚見

教えてあげるっ

キミはこれから  
悶々としながら  
いつも見ていた  
私のおっぱいで

精通  
するの♡

精通って  
言っても

これが初めての  
じゃない♡  
けれどっ♡

な...あつ  
あつ...!!

なに...コレッ  
チンチンが  
おかし...っ!!

今までも  
何度も私が精通  
させてたんだよ?

昨日も一昨日も  
先週も先々週も...  
その前も...

でも忘れさせたから  
キミは覚えてない  
んだけどね♡





この前は  
カウンター内で  
キミのおしゃぶり  
してたんだよ♡

初めての快感から  
腰が引けるのを  
抱きしめて逃がさない  
ようにしたら

私のお口いっぱい  
精通しちゃって  
腰が抜けそうに  
なってたね♡



別の日には  
遊びで一緒に  
押し入れに隠れてたら  
興奮しちゃった  
んだよね?♡

窒息しそうなくらい  
おっぱいに夢中  
なっちゃって  
可愛かったよ♡

その時は  
撫でただけで  
精通しちゃって  
顔真っ赤になってたね♡



そんな事を  
毎日毎日...♡

だから“頭”では  
初めての精通なのに  
“身体”は射精開発されて  
感度全開の全身性感帯に  
なってるんだよ♡

だからとっても  
気持ちいい  
でしょ?♡



ほら  
見て…♡  
キミは  
覚えてない  
ですけど

おめでとうっ♡  
これでちょうど  
精通百回目記念  
だよ♡

百回目の精通は  
どんな気持ち？♡  
仕込みに仕込まれた  
快感の味はどうだった？♡

ふふっ  
幸せそう♡  
ちんちん喜んで  
勃ったまま  
跳ねちやってるね♡

こんなに  
出したのに  
治まらないなんて  
刺激が強すぎた  
かな？♡

それなら  
……  
精通百回記念に…  
こっちの初めても  
味わっちゃおっか♡

ふえ…？

ぬちゅっ



待っ…あ…  
ちんちんが…っ  
溶け…ちやう…っ

筆おろし  
しちゃったのは  
本当に初めてだね♡  
出たり入ったりで  
私と一つに  
なっちゃってるの  
分かる…??♡



んは…♡  
ほら  
見て見てえ…♡

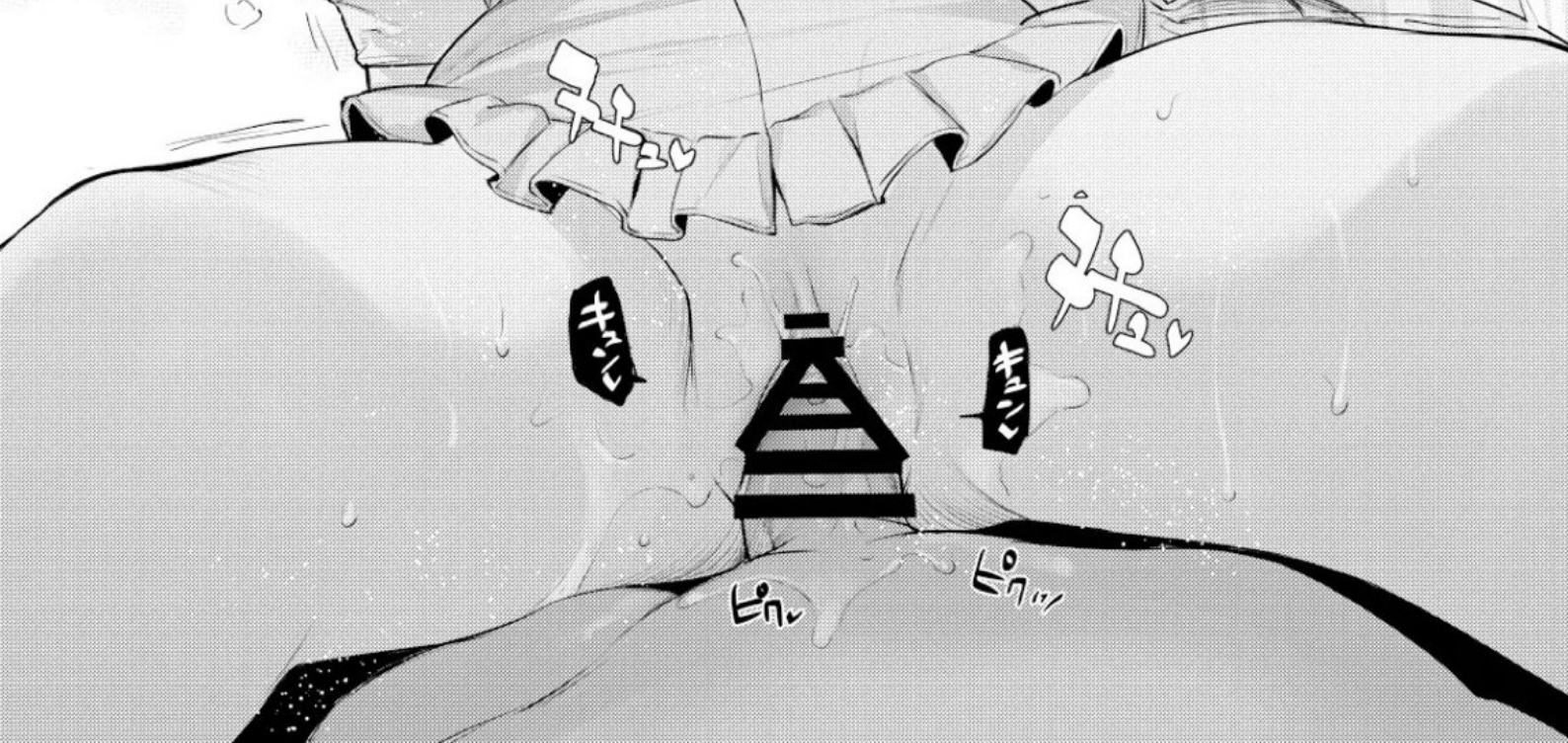


ん？  
だっ…え♡  
キミが  
いけないんだよ…？



初めて続きで  
ちんちん敏感で  
大変だよねえ♡  
でも  
腰引いちやダメ♡  
私の膣内も  
偏食しないで  
味わって♡

こん…な…  
な…んで…



キミ♡

キミ♡

キミ♡

キミ♡





だから最初は  
ちよつと  
お灸をすえて  
からかうつもりで

そうしたら  
涙目になって  
ふるふる震え  
ちやつて……



×

私のご飯も  
食べなかつたし  
悪態もついてたもんね



前のキミは  
ちよつと意地悪  
だったからね



その表情が  
もう……

堪ら  
なくて……♡



そんな顔……  
何度も……何度も……  
見たくなつちやう  
じゃないつ♡

ひま……

お灸

お灸

お灸



きつと  
身体が本能で  
快感を享受しようと  
動いちやってるんですね♡

そんな  
涙目でへこへこ  
動いちやって…  
可愛いね♡

なん…  
で…  
なんか…  
勝手に…動い…  
ちや…っ

う…あ…



初めての  
膣内射精の表情  
たっぷり見せてねっ♡

自分の気持ちに  
素直になって♡

そのまま  
自分の本能に  
正直になって♡





美宵さんの事  
好きだから…  
忘れたくない…っ

美宵さんの事  
全部覚えていたい  
—だって…っ

やだ…っ

ふい…っ

美宵さんとの事  
一つも  
忘れたくない…っ

え…あ  
ちよ…っ!?

だから…

どうしたらいいとか  
僕にはよく  
分かんないけど…っ

悪いこと  
謝る…からあ

もっと  
いい子になる  
から…あ

ずっと  
忘れずに…  
一緒…に…っ

僕…

僕…っ!





ん…?  
どうした?

結局  
あの夜は――

アハハ!  
ヤンデモナイ  
ワケスヨ!?



アイツ  
昨日泊まって  
まだ寝てるのか?

まあそろそろ  
起きてくると  
思うからよ

朝飯の準備して  
やらなきゃな



あの子はすぐ  
今までと同じように  
眠ってしまった

いつも通りなら  
きつと次の日には  
忘れたままのはず

そのはずだ……



我ながら  
身勝手にも――

忘れられる  
座敷わらしの宿命が  
急に疎ましく  
思えてきて……

そこでようやく  
思い立った



あの時の  
あの表情が――  
頭から離れなくて……



どうせ  
忘れられるからと  
行っていた痴態

覚えられていたら  
大変だ……  
恥ずかしい事が  
多すぎる……

あれから  
ずっと悶々と  
してしまふ……

そっか  
酔わされていたのは  
私の方だったのか  
と



キ...

もし  
覚えていたら...  
どんな顔して  
会えばいいんだろ  
.....







# ANMITSU TOUHO HISTORY

## Vol.4

発行日 ■ 2021/12/31

発行元 ■ あんみつよもぎ亭

発行者 ■ みちきんぐ

web ■ <http://anmitsuyomogi.seesaa.net/>

pixiv ■ 2361345

印刷 ■ 株式会社 上野印刷所

画像の転載、データ化、web上での  
データ共有はご遠慮ください

**2018.08 - 2021.12**  
**ANMITSUYOMOGITEI**

---

**OHYAKUDO JOUZUNO Sanae SAN**  
**INEMURI JOUZUNO DAITOSYOKAN**  
**WACHIKIHA AKACHANNI NARIMOUSHITA**  
**OKUNODAGA SEITSU JOUZUDE**  
**SUMIMASEN**